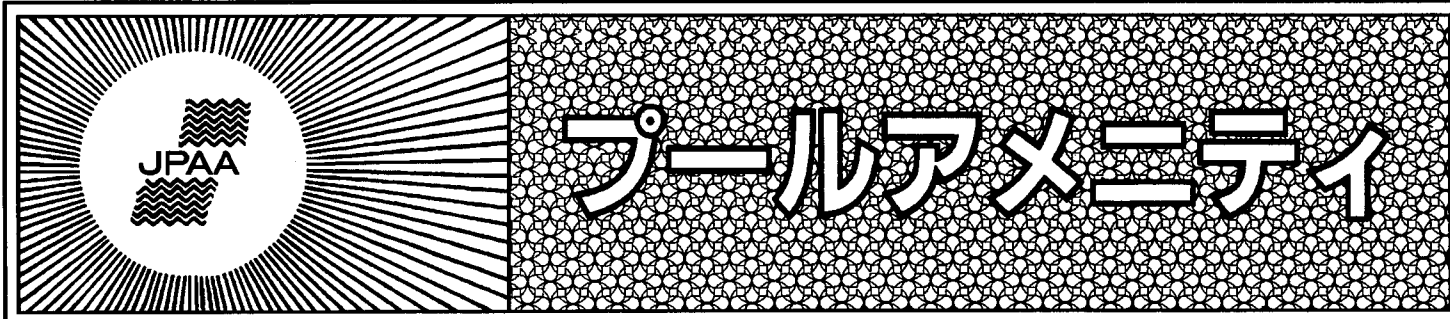




第 43 号

発行者
社団法人
日本プールアメニティ施設協会
〒170-0013 豊島区東池袋3-8-5-206
URL <http://www.jpaa.com/>
E-Mail jpaa@sepia.ocn.ne.jp
TEL 03-6907-8977
FAX 03-6907-8978

第33回
通常総会の開催（概要報告）

平成20年6月19日（木）午後3時30分より、東京都千代田区霞ヶ関1-1-1「(財)法曹会館」にて、第33回通常総会を開催した。

会議は定刻通り、野崎貞彦会長の挨拶、厚生労働省生活衛生課・三川麻衣殿の来賓挨拶に続いて、加藤浩氏を全会一致で、議長に選出した。次に定足数の確認を行い、正会員18社に対し委任状を含め出席数18社により、定款第24条に規定する過半数の定足数を超えたので、総会が成立したことを確認し、引き続き議案の審議に入った。

議案の審議結果

第1号議案～第9号議案まで全て全会一致で承認された。

第1号議案 議事録署名人に関する件

加藤浩議長、和泉忠彦氏、稲葉俊明氏を選任した。

第2号議案 会員及び役員に関する件

退会：正会員 株式会社 ササクラ 理水化学株式会社

入会：協力法人会員 アーバン・エンジニアーズ株式会社

財団法人 埼玉県公園緑地協会

協力個人会員 鈴木満、菅原和孝、塩澤宏之

内山孝友、武藤明子、村上慶

安藤壮、嶋崎貢、吉川知英

大谷一也、森岡宏彰、鈴木皓貴

辞任：理事 市川實

就任：理事 小野更生

第3号議案 平成19年度事業報告の件（別添参照）

第4号議案 平成19年度収支決算報告の件（別添参照）

第5号議案 監査報告に関する件（省略）

第6号議案 役員改選に関する件（省略）

第7号議案 平成20年度事業計画の一部見直しの件（省略）

第8号議案 平成20年度予算計画の一部見直しの件（別添参照）

第9号議案 会費改定の件（省略）

第3号議案 平成19年度事業報告

1 調査研究事業

日本大学医学部の協力のもと「水泳部に所属する中高生の睡眠と精神的健康に関する疫学的研究」を行った。本協会の正会員に平成20年6月に報告書を配布し、資料については無償で利用することが可能である。

2 講習会事業

プール衛生管理者講習会

受講者520名（修了者数519名）

受講者数延べ6,473名、（修了者数6,449名）

詳細は省略。

3 講習会事業

プール施設管理士講習会事業

平成19年度より「プール施設管理士講習会」開講した。

受講者334名（修了者数334名）

詳細は省略。

4 講演会活動 平成19年6月19日開催

「プールの安全標準指針の解説」

講師 アイ・プールデザイン代表 池田勝利氏

5 広報活動

5.1 機関紙「プールアメニティ」の発行

第42号 特集記事：「プール衛生基準の改定」

紹介記事：プール施設管理士講習会の開講

5.2 協会案内（パンフレット）を平成19年12月に改訂

5.3 講習会募集案内の広告掲載

「月刊体育施設」、「月刊ビルメンテナンス」

6 機器規格認定事業

機器認定委員会を1回開催し、2社21機種を認定した。

（平成20年3月31日現在）15社165機種の機器を認定。

7 コンサルティング事業

文書回答は23件、電話直接回答は5件であった。

8 委員会活動

企画運営委員会を10回実施し、協会の事業全般についての

企画・運営を行った。

9 管理業務

9.1 厚生労働省の検査

平成20年3月10日厚生労働省の定期検査があり、（1）理事会の議事録に役員の互選状況を議事録に記載すること、（2）公益事業の支出の改善、（3）講習会の規程・総会の旅費規程を整備すること、の3項目について改善勧告があり、それぞれの対策を回答した。

第4号議案 平成19年度収支決算報告の件

第16期（自平成19年4月1日至平成20年3月31日）

一般会計

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I. 収入の部			
1.事業活動収入			
①会費・入会金収入	3,420,000	3,389,000	△31,000
②事業収入	18,925,000	22,943,082	4,018,082
③雑収入	15,000	76,523	61,523
④前受金	160,000	△43,000	△203,000
事業活動収入計	22,520,000	26,365,605	3,845,605
II. 支出の部			
2.事業活動支出			
①管理費	3,885,000	3,897,895	12,895
人件費	435,000	383,738	△51,262
会議費	220,000	183,159	△36,841
交際費	300,000	414,107	114,107
旅費交通費	320,000	324,550	4,550
通信運搬費	120,000	86,251	△33,749
消耗什器備品費	80,000	45,117	△34,883
水道光熱費	190,000	185,789	△4,211
賃貸料	1,400,000	1,264,954	△135,046
雑費	660,000	754,709	94,709
租税公課	160,000	255,521	95,521
②事業費	19,245,000	19,800,889	555,889
人件費	3,915,000	3,453,646	△461,354
旅費交通費	2,600,000	2,810,585	210,585
通信運搬費	1,080,000	776,261	△303,739
消耗什器備品費	720,000	406,055	△313,945
印刷製本費	2,300,000	4,030,930	1,730,930
賃貸料	1,800,000	1,436,095	△363,905
諸謝金	2,600,000	2,358,400	△241,600
講習会雑費	100,000	355,765	255,765
雑費	150,000	66,858	△83,142
委員会費	1,200,000	1,233,831	33,831
広報活動費	1,280,000	1,372,463	92,463
特定支出(調査研究)	1,500,000	1,500,000	0
③前払金	900,000	143,845	△756,155
④未収入金回収		△930	
⑤未払金		15,750	15,750
⑥マニュアル作成基金積立	5,000,000	5,000,000	0
事業活動支出計	29,030,000	28,857,449	△172,551
当期収支差額	△6,510,000	△2,491,844	4,018,156
前期繰越収支差額	13,104,393	13,104,393	0
次期繰越収支差額	6,594,393	10,612,549	4,018,156

第8号議案 平成20年度予算計画の一部見直しの件

第17期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）

（単位：千円）

科 目	当 初 予 算	修 正 予 算	差 異
I. 収入の部			
1.事業活動収入			
①会費・入会金収入	3,600	1,540	△2,060
②事業収入	21,380	20,966	△414
③雑収入	20	70	50
④前受金	100	117	17
事業活動収入計	25,100	22,693	△2,407
前期繰越収支差額	13,000	10,612	△2,388
収入合計	38,100	33,305	△4,795
II. 支出の部			
2.事業活動支出			
①管理費	4,030	5,000	970
人件費	440	440	0
会議費	240	240	0
交際費	400	1,100	700
旅費交通費	320	575	255
通信運搬費	120	95	△25
消耗什器備品費	80	80	0
水道光熱費	160	160	0
賃貸料	1,360	1,360	0
雑費	700	710	10
租税公課	210	240	30
②事業費	25,590	27,905	2,315
人件費	3,960	3,960	0
旅費交通費	3,100	3,100	0
通信運搬費	1,080	855	△225
消耗什器備品費	720	720	0
印刷製本費	6,300	8,300	2,000
賃貸料	2,100	2,000	△100
諸謝金	3,700	3,800	100
講習会雑費	100	360	260
雑費	150	150	0
委員会費	1,400	1,640	240
広報活動費	1,480	1,520	40
特定支出（調査研究）	1,500	1,500	0
③引当積立金	0	0	0
④前払金	1,100	866	△234
当期支出合計	35,720	38,771	3,051
当期収支差額	△10,620	△16,078	△5,458
次期繰越収支差額	12,380	△466	△7,846

北京オリンピック水泳競技施設概要報告

北京オリンピック日本水泳選手団団長

(財)日本水泳連盟 副会長・専務理事

佐野 和夫



アジア地域開催として三番目、中華人民共和国北京市で開催された「第29回オリンピック競技大会北京2008」は、8月8日から24日の17日間にわたって実施され、数々の実績をスポーツ史に残した。この史上最大規模の祭典で、心配されたテロはなく、大気汚染や飲食の安全にも大きな問題はなかったが、解決すべきいくつかの課題を残したことも事実である。

大会には204の国・地域が参加して、28競技302種目で熱戦が繰り広げられ、金メダル獲得数は、中国が同国史上最多の51個で初の世界1位となり、米国は36個で2位であった。日本の金メダルは9個で、チームジャパンの“水泳ニッポン”は、金2個を含む6個のメダルを獲得することができた。競技結果の詳細な記録は別紙面にゆずることにして、ここでは、大会前半を飾った水泳競技成績と、水泳チームから見た施設面を主体に概観してみる。

1. “水泳ニッポン”の競技成績

競泳競技においては、世界164カ国地域、選手980名の参加となり、日本競泳チームは、選手31名、役員19名、計50名の選手団を編成派遣した。目標に掲げたメダル5個の設定に対して、全選手、役員、コーチ、トレーナーらが一体となり、全力を尽くした結果、金2、銅3、計5個のメダル獲得および入賞15の成績が得られ、目標の成果に到達することができた。

なかでも特筆すべきは北島康介選手の超人的な活躍であり、平泳ぎ2種目で世界新記録を含むオリンピック2連覇は、チームに大きな活力と弾みを生み出したばかりでなく、北京オリンピック日本代表選手団“チームジャパン”の成績向上に計り知れない影響を与えた偉業といえる【写真1、2】。加えて日本競泳チームの成績として、世界新記録1、日本新記録27、日本タイ記録1、人数

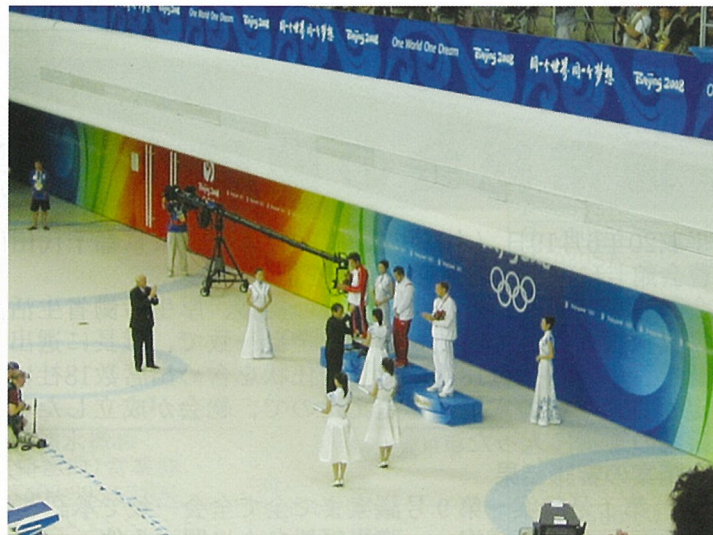


【写真1】▲北島康介選手がセンターポールに掲げた日の丸“100m平泳ぎ世界新記録”

に大きな活力と弾みを生み出したばかりでなく、北京オリンピック日本代表選手団“チームジャパン”の成績向上に計り知れない影響を与えた偉業といえる【写真1、2】。加えて日本競泳チームの成績として、世界新記録1、日本新記録27、日本タイ記録1、人数

別ベスト率51.85%をマークしたことは、近來でも際立った高評価が得られるところである。

飛込競技は、長年世界の王座を維持する中国が、終始高いレベルでほとんどミス無く完璧な演技を披露した。中国は個人種目で金メダル



【写真2】▲金メダル表彰を受ける北島康介選手

をほぼ独占し、他につけ入る隙を与えない演技力は抜群ともいえる。

日本は、選手2、役員2、計4名を派遣したが、依然として国際的に通用する確実な選手が不在である。これまでの実績を集大成した日本のエース寺内健選手が、3m板飛込において果敢に挑戦したが、結果的に世界の壁を打ち破ることができず、決勝11位となり入賞にも届かなかった。

シンクロナイズドスイミング競技は、ロサンゼルスオリンピック(1984年)で導入実施されて以来、過去6大会のすべての種目でメダルを獲得してきた日本チームが、ここにおいてスペイン、中国の急速な進歩に苦汁を飲む結果となった。

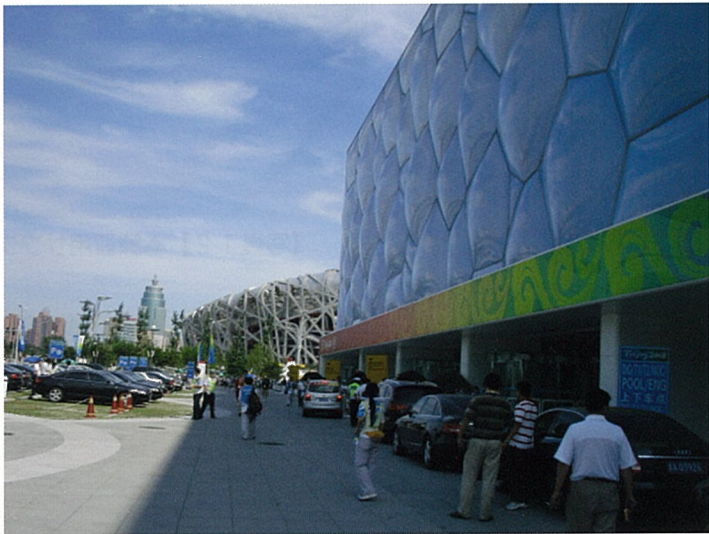
選手9、役員6、計15名が参加した日本シンクロチームは、ロシア、スペインには、デュエット、チーム両種目とも対抗できず、加えて選手の体格(身長・体形)を欧米人並みに揃えた中国には苦戦を余儀なくされた。

しかしながら、日本はデュエット種目において、高度な演技内容と同調性で中国をリードして、日本の伝統を守り勝利を握って銅メダルを獲得したが、チーム種目においては、逆に同調性の不十分さとともに日本の高度な技術に対して得点が伸びず、テクニカルR、フリーRともに見栄えの良い中国に遅れをとった。ここに過去を含めた全種目メダル獲得の記録は途切れたが、オリンピック7大会連続メダル獲得を達成できたことは、シンクロ陣の大いなる努力の賜物である。

日本水泳界は、この北京オリンピックを期に、競泳、飛込、シンクロともにほとんどの選手が世代交代となるが、今回参加が実現できなかった水球、オープンウォーター(OWS)を含めて、北京大会のハイレベルな成績、その背景、経緯を十分に分析し、次期目標ロンドンオリンピックに向って原点に立ち返り、各種別において早急に強化対策を練り直す端境期にきているともいえる。

2. 北京国家水泳センター(中国語 北京国家游泳中心)メインプール

北京市の北四環路の北側、オリンピック公園「オリンピック・グリーン」内に建つ水泳施設であり、「ウォーターキューブ(中国語:水立方)」の愛称で呼ばれている。



【写真3】▲「ウォーターキューブ」(右)と「鳥の巣」(左)

全体的に、水泡を模したスペース・フレームの構造をとっており、外壁および屋根はETFE膜(フッ素樹脂の一種であるエチレン・四フッ化エチレン共重合体による膜)で覆われている【写真3、4】。



【写真4】▲北京国家水泳センター「ウォーターキューブ」の壁面ETFE膜(熱可塑性フッ素樹脂)

日本の旭硝子が開発した「ETFE(熱可塑性フッ素樹脂)」である。

観客席の収容人数はオリンピック時には17,000人であるが、一般

席への割り当ては9,000足らずである【写真5】。オリンピック後には全席数を6,000に減少する予定であり、トレーニングやレジャー目的にも利用可能な施設に改装される計画である。



【写真5】▲メインプールの選手席(プールサイド)と観客席

建物の建築面積は6万5000m²であり、その大きさは177m×177m×31mとなっている。工期は、2003年4月着工、2008年1月28日竣工とされ、メインプールは、競泳競技全般に利用さ

れる50m×25mの10コース(公認8コース・短水路16コース)の国際公認規格である【写真6、7】。

水深は3.0mで底面に傾斜はない。

夜間にはブルー、イエロー、バイオレットなど様々なカラーでライトアップされて夜景を彩る【写真8】。

昼間ならば太陽光が内部まで届くため、自然光に照らされたプールとなる「省エネ設計」が実現している

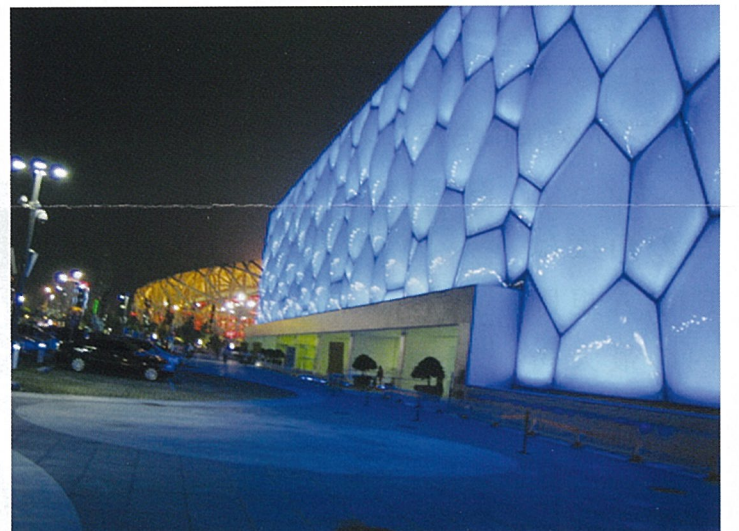
【写真9】。



【写真6】▲メインプール全景



【写真7】▲メインプール折返し側の状況



【写真8】▲夜間ライトアップされた「ウォーターキューブ」、左はメインスタジアム「鳥の巣」



【写真9】▲自然光採光方式メインプール

3. 水温水質管理

水温および水質の管理は徹底していた。メインプールの水温は、大会期間中は常時26.9℃が保持され、サブプールも

ほぼ同様の条件である27.1℃に管理されていた。水質管理も方式の詳細は不明であるが、透明度、薬品添加度、臭気などまったく問題がなく、水温水質管理への対策は、十分であったといえる。

4. 高速プールと附属施設

従来、高速プールとしてはいくつかの条件が挙げられているが、「水立方」のプールは、現在考えられるすべての条件を以下のように具備しており、その他の施設ともども今後の参考となる。

- ① プールの水深は、競泳に最適とされている3.0mであり、全面にわたって平坦である。物理的には、底面からの波動の反射波を避ける意味から、さらに深い方が有利と考えられることもあるが、泳者の心理面も含めて配慮すると、この条件が最適といえる。
- ② 前述のごとく、水温水質管理が徹底されて記録の出やすい27℃に厳格に保持されており、サブプールとの差異も殆どないといえる。
- ③ コースロープのブイ形状については、現存の効果ある消波形状ブイが使用されており、特に問題はない。

- ④ スタート台の角度はFINA規則内の最大角度10度を採用、形状は0.5m×0.75mと拡大している【写真10】。



【写真10】▲設置された新型スタート台

しかしながら、外観上は区別がつかないが、足裏のすべり度が異なる感覚をもった選手が一部あり、スタート台天板上面の材質がメインプールとサブプールで異なっている可能性がある。

- ⑤ 遠隔操作による水中・水上カメラによる泳法観察を可能としている【写真11】。



【写真11】▲全方位角水中カメラ(右)とプールサイド水上レールカメラ(左)

- ⑥ 練習用サブプールの配置は、メインプールとの至近距離にあり、水温管理、導線を含めて十分な対応が取られ

ていた【写真12】。

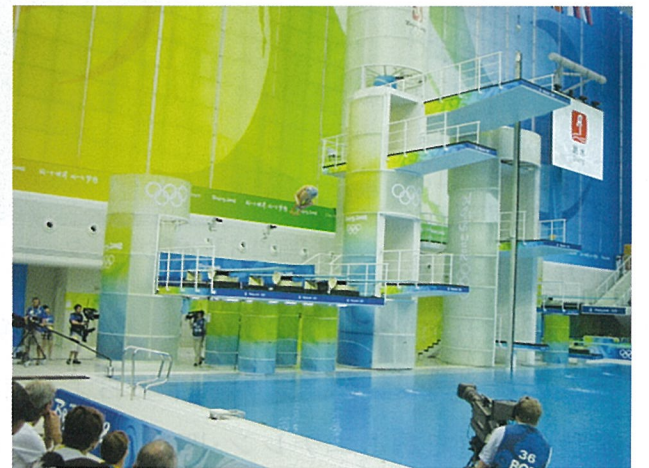
5. 飛込競技施設

中国水泳のお家芸である飛込は、国家的人気の高いこともあり、飛込施設にも細かい配慮がなされている。

落ち着いた感覚のデザイン、17,000観客席全てから鳥観が可能であり、演技のリアルタイム撮像カメラを含めた細かい附属施設にも不足はない【写真13】。



【写真12】▲練習用サブプール (50m)



【写真13】▲飛込プールと施設

ドライランドの練習場所も十分に備えられ、選手の利用度は高かった【写真14】。



【写真14】▲飛込ドライランド練習場

6. シンクロ競技施設

シンクロナイズドスイミング競技は、メインプールが使用され、陸上演技台の直後から水深3mが確保されて競技上設備的問題はない。中国での近年のシンクロ人気を反映して、競泳、飛込と同様、終始観客席は満員であった【写真15】。



【写真15】▲メインプールでのシンクロ競技

7. その他インフラ施設

オリンピック村内各居住区のスペース【写真16】、飲食関係【写真17】、村内庭園の手入れ【写真18】、アミューズメント施設【写真19、20】、会場内および選手村と競技場とのアクセス、シャトルバスなどのプログラム、過剰

な数ともいえるボランティアの配置による諸々のサービスなどが大会の成功を支えたが、セキュリティーについては必要以上と思われる厳格な面もあった。



【写真16】▲オリンピック村内風景



【写真17】▲1,000人以上を収容する食堂と各国料理の提供



【写真18】▲オリンピック村 日本選手団居住区



【写真19】▲北京オリンピック マスコット



【写真20】▲オリンピック村内 中央広場

8. 総 括

北京オリンピックの開幕前、各種のメディアや各国の選手、関係者が懸念していた大気汚染、食品の安全、テロなどの問題は、北京大会期間中に限れば大きな問題は無かったように見える。

中国は巨大な国力と存在感を世界に示し、日本代表選手の連日の活躍は、人々に数々の感動を呼び、深い感銘を与えたことと思われる。

水泳競技の面からのみで推し量っても、北京オリンピックの施設・設備の充実さは、過去の大会施設に十分比肩し得るものと評価でき、今後の大きな参考実績となるであろう。

(社) 日本プールアメニティ施設協会・認定機器一覧表

平成20年8月6日現在

新認定番号	会社名	型 式	型 番
JPAA-01-001	メタウォーター(株) (連絡窓口) 事業開発本部 資源・環境営業部民需水環境グループ TEL:03-5435-7065	プール水浄化用オゾンライザ	POL-250N
JPAA-01-002			POL-450N
JPAA-01-003			POL-600N
JPAA-01-004			POL-1200N
JPAA-02-001	ミウラ化学装置(株) (連絡窓口) 東京営業部 TEL:03-3916-1200	可逆式珪藻土ろ過 A-1フィルター	PA40-204AT
JPAA-02-002			PA60-206AT
JPAA-02-003			PA100-210AT
JPAA-02-004			PA150-215AT
JPAA-02-005		砂ろ過装置	MS-II SAT
JPAA-02-006			MS-III SAT
JPAA-02-007			MS-IV SAT
JPAA-02-008			MS-V SAT
JPAA-02-009		可逆式珪藻土ろ過 A-1フィルター	PA40-204
JPAA-02-010			PA60-206
JPAA-02-011			PA12-202AT
JPAA-02-012			PA24-203AT
JPAA-03-001	住友精密工業(株) (連絡窓口) 環境システム事業部 営業推進部 TEL:03-6220-0725	オゾン反応処理装置	SPA-5A
JPAA-03-002			SPA-7A
JPAA-03-003			SPA-10A
JPAA-03-004			SPA-13A
JPAA-03-005			SPA-17A
JPAA-03-006			SPA-27A
JPAA-03-007			SPA-37A
JPAA-03-008			SPA-50A
JPAA-03-009			SPA-80A
JPAA-03-010			SPA-100A
JPAA-03-011			SPA-140A
JPAA-03-012			SPA-17AOP
JPAA-03-013			SPA-27AOP
JPAA-03-014			SPA-37AOP
JPAA-04-001	千代田工販(株) (連絡窓口) UVシステム事業部 TEL:03-3575-0573	紫外線殺菌浄化装置 フロンライザ	FDL-6
JPAA-04-002			FDL-10
JPAA-04-003			FDL-12
JPAA-04-004			FDL-14
JPAA-04-005			FDL-16
JPAA-04-006			FDH-8
JPAA-04-007			FDH-12
JPAA-04-008			FDH-16
JPAA-04-009			FDH-22
JPAA-04-010			FDH-26
JPAA-05-001	ヤマハ発動機(株) (連絡窓口) プール事業部 TEL:053-594-6512	全自動砂ろ過装置	YSF-10T
JPAA-05-002			YSF-20T
JPAA-05-003			YSF-40T
JPAA-05-004			YSF-60T
JPAA-05-005			YSF-80T
JPAA-05-006			YSF-100T
JPAA-05-007			YSF-120T
JPAA-05-008			PSI-60T
JPAA-05-009			PSI-80T
JPAA-05-010			PSI-100T
JPAA-05-011			PSI-120T
JPAA-05-012			YSF-5T-A
JPAA-05-013			YSF-10T-A
JPAA-05-014			YSF-15T-A
JPAA-05-015			YSF-20T-A
JPAA-05-016			YSF-30T-A
JPAA-05-017			YSF-40T-A
JPAA-05-018			YSF-60T-A
JPAA-05-019			YSF-80T-A
JPAA-05-020			YSF-100T-A
JPAA-05-021			YSF-120T-A
JPAA-05-022		手動砂ろ過装置	YSF-5T-M
JPAA-05-023			YSF-10T-M
JPAA-05-024			YSF-15T-M
JPAA-05-025			YSF-20T-M
JPAA-06-001	栗田工業(株) (連絡窓口) 機器メンテ営業二課 TEL:03-3347-3547	全自動砂式プール循環 浄化装置	KPF-LA-2
JPAA-06-002			KPF-LA-3
JPAA-06-003			KPF-LA-4
JPAA-06-004			KPF-LA-5
JPAA-06-005			KPF-Lb-2
JPAA-06-006			KPF-Lb-3
JPAA-06-007			KPF-Lb-4
JPAA-06-008			KPF-Lb-5
JPAA-07-001	三菱電機プラントエンジニアリング(株) (連絡窓口) 社会システム営業第二課 TEL:03-5827-6326	オゾンプール浄化装置	MP20T-NPV
JPAA-07-002			MP40T-NPV
JPAA-07-003			MP60T-NPV
JPAA-08-001	三菱レイヨン・エンジニアリング(株) (連絡窓口) アクア事業部 アクアシステム部 TEL:03-5495-3287	膜処理装置	SAS2401
JPAA-08-002			SAS2402
JPAA-08-003			SAS2403
JPAA-08-004			SAS2404
JPAA-08-005			SAS2405
JPAA-08-006			SAS2406
JPAA-08-007			SAS2408
JPAA-08-008			SAS2410
JPAA-09-001	日機装エイコー(株) (連絡窓口) エンジニアリンググループ TEL:042-390-6540	砂ろ過装置	SFF-11AP
JPAA-09-002			SFF-14AP
JPAA-09-003			SFF-16AP
JPAA-09-004			SFF-19AP
JPAA-09-005			SFF-21AP
JPAA-09-006			SFN-19AP
JPAA-09-007	(株)三協 (連絡窓口) 技術部設計課 TEL:0568-28-1771	自動砂式循環ろ過装置	5D-ST16AP
JPAA-10-001			NB-5
JPAA-10-002			NB-6
JPAA-10-003			NB-7
JPAA-10-004			NB-8
JPAA-10-005			NB-9
JPAA-10-006			NS-1
JPAA-10-007			NS-2
JPAA-10-008			NS-3
JPAA-10-009			NS-4
JPAA-11-001	三洋電機(株) (連絡窓口) 営業本部 システム商品企画部 TEL:03-6364-3463	電気分解式次亜塩素酸 ナトリウム生成装置	ACS-P1010
JPAA-11-002			ACS-P510
JPAA-11-003			ACS-P310
JPAA-11-004			ACS-PB1010
JPAA-11-005			ACS-FB3010
JPAA-11-006			ACS-FB610
JPAA-11-007			ACS-HB210
JPAA-11-008			ACS-JB450S
JPAA-11-009			ACS-B400
JPAA-11-010			ACS-BG600
JPAA-11-011			ACS-B600
JPAA-11-012			ACS-B200
JPAA-11-013			ACS-B50
JPAA-11-014			ACS-B51

新認定番号	会社名	型 式	型 番
JPAA-12-001	東西化学産業(株) (連絡窓口) 東京機械営業部 TEL:03-5566-0601	自動型循環ろ過装置	APF-12P
JPAA-12-002			APF-18P
JPAA-12-003			APF-25P
JPAA-12-004			APF-35P
JPAA-12-005			APF-50P
JPAA-12-006			APF-70P
JPAA-12-007			APF-100P
JPAA-12-008			APF-125P
JPAA-12-009			APF-150P
JPAA-12-010			APF-200P
JPAA-12-011			APF-225P
JPAA-13-001	日本フィルコン(株) (連絡窓口) 水処理製品事業部 東京営業所 TEL:042-377-5746	手動珪藻土式ろ過装置	P-030M
JPAA-13-002			P-040M
JPAA-13-003			P-060M
JPAA-13-004			P-090M
JPAA-13-005			P-120M
JPAA-13-006		全自動珪藻土式ろ過装置	P-030ME
JPAA-13-007			P-040ME
JPAA-13-008			P-060ME
JPAA-13-009			P-090ME
JPAA-13-010			P-120ME
JPAA-13-011		全自動砂ろ過装置	P-005SE
JPAA-13-012			P-010SE
JPAA-13-013			P-020SE
JPAA-13-014			P-030SE
JPAA-13-015			P-040SE
JPAA-13-016			P-060SE
JPAA-13-017			P-090SA
JPAA-13-018			P-120SA
JPAA-13-019			P-150SA
JPAA-14-001	フジカ濾水機(株) (連絡窓口) 営業部 TEL:03-3988-7106	圧力式下降流式単層 砂式ろ過機	SF5-2AE
JPAA-14-002			SF7-3AE
JPAA-14-003			SF10-5AE
JPAA-15-001	(株)三進ろ過工業 (連絡窓口) 東京営業所 TEL:03-3945-6541	砂式ろ過機	SRP-500-M
JPAA-15-002			SRP-600-M
JPAA-15-003			SRP-800-M
JPAA-15-004			SRP-1000-M
JPAA-15-005			SRP-1200-M
JPAA-15-006			SRP-1400-M
JPAA-15-007			SRP-1600-HM
JPAA-15-008			SRP-1800-HM
JPAA-15-009			SRP-2000-HM
JPAA-15-010			SRP-2400-HM
JPAA-15-011		珪藻土式ろ過機	FP-80
JPAA-15-012			FP-150
JPAA-15-013			FP-200
JPAA-15-014		カートリッジ式ろ過機	FP-300
JPAA-15-015			FP-100-C
JPAA-15-016			FP-200-C
JPAA-15-017			FP-300-C
JPAA-15-018			FP-400-C
JPAA-16-001	協和(株) (連絡窓口) 本社営業部 TEL:052-794-2777	全自動砂式循環ろ過装置	KSO-100-2000FL
JPAA-16-002			KSO-130-2200FL
JPAA-16-003		全自動カートリッジ式循環ろ過装置	ZA-80G

正 会 員 名 簿

(平成20年6月13日現在)

会社名	窓口	電話番号	
株式会社東工業	営業部	03(3765)5021	ろ過
協和株式会社	営業部	052(794)2777	ろ過
財団法人厚生年金事業振興団	総務課	03(3354)8881	事業
株式会社三協	技術部設計課	0568(28)1771	ろ過
株式会社三進ろ過工業	東京営業所	03(3945)6541	ろ過
三洋電機株式会社	マーケティング統括部	03(6364)3463	電解
シンコースポーツ株式会社	事業管理部	03(3833)6677	管理運営
住友精密工業株式会社	環境システム事業部	03(6220)0725	オゾン
株式会社竹村製作所	水環境事業部	026(251)0220	ろ過
千代田工販株式会社	UVシステム事業部	03(3575)0573	紫外線
東西化学産業株式会社	営業推進本部	03(5566)0601	ろ過
日機装エイコー株式会社	エンジニアリンググループ	042(390)6540	ろ過
日本フィルコン株式会社	工業製品事業部水処理製品部	04(2935)1110	ろ過
フジカ濾水機株式会社	営業部	03(3988)7106	ろ過
ミウラ化学装置株式会社	東京支店	03(3916)1200	ろ過
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社	社会システム営業第二課	03(5827)6326	オゾン
メタウォーター株式会社	環境ソリューション営業部	03(5435)7065	オゾン
ヤマハ発動機株式会社	プール事業部	053(592)6512	製造

(五十音順)

役 員 名 簿 (全役員非常勤)

(期間:平成18年9月20日~平成20年9月20日)
(敬称略)

役 職	氏 名	会社名・法人名	所 属・役 職
会長	野崎 貞彦	三菱化学メディエンス株式会社	顧問
副会長	大井田 隆	日本大学医学部	社会医学講座公衆衛生学部門 教授
専務理事	長島 弘典	株式会社LEDシステムズ	参与
常任理事	二宮 敏行	三菱電機プラントエンジニアリング株式会社	社会システム営業部部長
理事	井上 宇市	井上宇市設備研究所	所長
理事	小野 更生	日本フィルコン株式会社	水処理製品事業部部長
理事	小牧 裕志	メタウォーター株式会社	代表取締役副社長
理事	笹野 英雄	元日本大学薬学部薬学研究	顧問
理事	佐野 武仁	昭和女子大学大学院	生活機構研究科 教授
理事	島田 豊	住友精密工業株式会社	環境システム営業推進部部長
理事	鈴木 望	全国市長会(磐田市長)	社会文教委員会委員長
理事	玉利 齊	財団法人日本健康スポーツ連盟	理事長
理事	中村 克彦	東西化学産業株式会社	執行役員
理事	細川 公平	千代田工販株式会社	UVシステム事業部長
理事	松田 朗	財団法人厚生年金事業振興団	常務理事
理事	三浦 紀彦	ミウラ化学装置株式会社	専務取締役
監事	青木 章太	青木会計事務所	所長
監事	田淵ひろし	ヤマハ発動機株式会社	プール事業部チームリーダー